

犀川スキーバス事故

「風化させない」誓つ

愛知・日福大で追悼集会

三十八年前に長野市でスキーバスが犀川に転落し、日本福祉大(愛知県美浜町)の学生ら二十五人が亡くなった事故の追悼集会が二十七日、日本福祉大美浜キャンパスであり、学生ら百七十七人が参列した。

集会は慰霊碑がある広場で開かれた。児玉善郎学長は「悲惨なバス事故のことを風化させないとともに、二度と繰り返さないよう取り組んでいくことが本学の使命」と誓った。学生代表



献花する参列者たち。愛知県美浜町の日本福祉大で

の社会福祉学部二年、鈴木竜斗さん(二〇)は「私たちが事故の教訓を語り継いでいく必要がある」と述べた。

参列者は黙とうの後、一人ずつ献花した。亡くなった女子学生と社会福祉学部で同級生だった会社員中西利博さん(五七)は愛知県豊川市に約三十年ぶりに参列。「たくさんの学生が参列してくれてありがたい。手を合わせながら、事故当時のことを思い出していました」と話した。

事故は一九八五年一月二十八日早朝に発生。スキー合宿へ向かう四十六人を乗せたバスが、長野市信更町の国道19号でスリップし、

ガードレールを突き破って犀川に転落。学生二十二名、教員一人、乗務員二人が死亡した。